

# MACROCOSM



## CONTENTS

---

- 2 グローバルリーダー育成事業
  - 9 エストニア共和国教育研究省大臣来訪
  - 10 国際理解教育支援プログラム
  - 12 IYEOスリランカ教育支援プロジェクト
  - 13 バーレーン政府主催国際青年会議(健康とスポーツ) / マレーシア国際青年交流2014
- 

マクロコズム

# グローバルリーダー育成事業 The Global Leaders Development Program

グローバルリーダー育成事業(GLDP)は、明治百年記念事業として開始された「青年の船」事業及びその後発展的に改組した「世界青年の船」事業を継承するものとして、平成25年度に実施されました。

陸上研修、船上研修及び海外研修の三部構成で実施された本事業では、外国青年との多国間のディスカッションや文化交流を通して、相互理解を深め、有識者によるセミナーの受講や自主活動を企画することによって、異文化対応力やコミュニケーション力を高め、リーダーシップやマネジメント力の向上を図り、併せて参加青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神を育てることにより、国際化の進展する各分野でリーダーシップを発揮することができる青年を育成するとともに、参加青年が事後活動において社会貢献活動へ寄与することを目的としています。

日程	内容
1月22日～2月3日	外国参加青年来日・国内活動・陸上研修等
1月25日～2月3日	日本参加青年直前研修及び陸上研修
2月4日～12日	運航 - 船上研修 寄港地活動(宮城県石巻市)
2月12日～2月20日	日本参加青年外国派遣 - 海外研修 (バーレーン王国、フィジー共和国、メキシコ合衆国、トルコ共和国)
2月21日～22日	日本参加青年帰国後研修

参加国：バーレーン王国、ブラジル連邦共和国、フィジー共和国、インド、メキシコ合衆国、スウェーデン王国、タンザニア連合共和国、トルコ共和国及び日本

構成：日本参加青年87名、外国参加青年71名  
(8か国×9名を基本)  
(参加青年数には、各国代表団のナショナル・デリゲーション・リーダーを含む)

## 国内活動・陸上研修

外国参加青年は来日後に歓迎レセプションや地方プログラム等を行った後、日本参加青年と合流し、皇太子殿下御接見及び内閣総理大臣表敬訪問(代表者のみ)、コース・ディスカッション(異文化理解、環境、情報・メディア、青年起業)、リーダーシップ・セミナー、プロジェクトマネジメント・セミナー、課題別視察、都内視察、国際連合大学訪問等の陸上研修を行い、2月4日に横浜港を出航しました。



安倍晋三内閣総理大臣表敬(内閣官房内閣広報室提供)



歓迎レセプション：各国ナショナル・デリゲーション・リーダーが森まさこ内閣府特命担当大臣と懇談



地方プログラム(長野県)：善光寺で手水を体験するトルコとブラジルの参加青年



地方プログラム(徳島県)：飯泉嘉門知事表敬訪問



地方プログラム(香川県)：香川大学にてディスカッション交流会を実施



地方プログラム(大分県)：ホストファミリーも参加した歓迎会

## 船上研修（寄港地活動）

船内では、コース・ディスカッションを中心に、クラブ活動、グループ活動に加えて、委員会によって企画・運営されたリーダーシップセミナー、PYセミナー、ナショナル・プレゼンテーション(NP)、事後活動連携強化プログラム(事後活動セッション)等が行われました。



ナショナル・プレゼンテーション：メキシコの参加青年による伝統的な踊りの披露



サマリー・フォーラム：青年起業コースの参加青年が、「起業家」の定義をいくつかの重要な単語を使って説明

### 寄港地活動（宮城県石巻市）

寄港地活動では、参加青年が被災地を訪問することで、震災と復興の現状を学び、正しく理解するとともに、今後の復興支援の在り方を考えることによって、青年が社会に貢献していくことの重要性を具体的に認識し、自らの社会活動につなげていくことをねらいました。また、世界8か国と日本の青年が、被災地の人々との交流を通じて認識したり、学んだりしたことを「復興に必要なことは何か」という自らの考えとともに発信できるようにすることが期待されました。そして、今回の訪問が交流した被災地の人々を少しでも力付けるようになることを願っています。

### スケジュール

日程	時間	活動
2月6日 (木)	8:00 10:50~15:45 16:45~18:00 19:00~20:30	石巻港入港 コース・ディスカッション別課題別視察（注1） ローカル・ユースとのアイスブレイクと意見交換 歓迎レセプション
2月7日 (金)	9:00~14:30 14:30~16:15 17:45~20:45 21:00~23:00	レター・グループごとの交流活動（9コース）（注2） 交流活動後、市内視察、帰船 交流のタペ インターナショナル・ナイトEXPO
2月8日 (土)	9:00~10:30 10:45	振り返り、実行委員及びローカル・ユース下船 石巻港出港

（注1）

異文化理解：NPO法人 国際支援地球村

環境：石巻地区森林組合

情報・メディア：石巻NEWSee（石巻日日新聞）

青年の起業：特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク（やっぺす）

（注2）

A石巻専修大学／B一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0

C株式会社ヤマサコウショウ／D石ノ森萬画館

E宮城県慶長使節船ミュージアム／F万石ささえあい拠点センター

G石巻市立蛇田小学校

H石巻市立向陽小学校／I石巻市立鹿妻小学校



東日本大震災被災者への献花：最も被害が大きかった場所に設置された「がんばろう石巻」の看板の前に献花をする参加青年代表



石巻NEWSeeと株式会社石巻日日新聞社を訪問：武内宏之館長（常務取締役）の案内で、当時発行した壁新聞を見学（課題別視察：情報・メディアコース）



歓迎レセプションでの亀山紘石巻市長あいさつ



一般社団法人 ISHINOMAKI 2.0：小泉瑛一理事より震災後の地域活性化の復興活動について話を伺う（レター・グループ別活動）



万石ささえあい拠点センター：仮設住宅の入居者の方に歌をプレゼント（レター・グループ別活動）



株式会社ヤマサコウショウ：被災後、社員と共に協力していち早く復興を成し遂げた佐々木孝敏社長（前列左から4番目）からお話を伺う（レター・グループ別活動）

## 海外研修

海外研修は、日本参加青年が陸上・船上研修において身に付けた力を訪問国で日本代表として実践し、各国で得た体験や学びを帰国後に発信できるようになることをねらいました。また、訪問国との友好を象徴する事業であることから、日本国大使館と相手国政府との連携によって行われるプログラムへの参加を通して、青年親善使節大使として訪問国の人々と交流する中で日本を発信することを期待し、さらに、受入れに際して、「世界青年の船」事後活動組織 (SWYAA) の実施協力を求めることにより、これまでの事業で蓄積されてきた人的ネットワークをいかしつつ、それを強化することを目標にしました。

### バーレーン王国(青年起業コース)

日程	活動
2月12日(水)	東京(成田)出発(アブダビ経由)
2月13日(木)	バーレーン到着、日本国大使館よりオリエンテーション シェイク・イブラヒム・センターとムハラク旧市街視察 歓迎レセプション (全日程宿泊マナーマ)
2月14日(金)	バーレーン要塞、カラート・アル・バーレーン博物館、 バーレーン国立博物館 見学 スポーツイベント (Bahrain Ninja) 開会式出席
2月15日(土)	ホーム・ビジット
2月16日(日)	コース関連課題別視察: Tamkeen (バーレーンにおける人材 育成、起業支援の取組をしている機関) コーラン博物館 見学 スーク(市場)にてバーレーン既参加青年と共に自由時間
2月17日(月)	コース関連課題別視察: Tenmou (起業支援会社) アハマド・アル・ファテ・モスク見学
2月18日(火)	コース関連課題別視察: バーレーン開発銀行 バーレーン開発銀行の支援を受けて女性起業家が開いたレス トランにて昼食 バーレーン文化体験 (バーレーン・ナイト)
2月19日(水)	アル・ジャスラ伝統工芸館 視察 歓送昼食会 (アル・ジャスラ伝統工芸館中庭) バーレーン出発(アブダビ経由)
2月20日(木)	東京(成田)到着



「世界青年の船」事業の既参加青年が立ち上げた起業家向け投資会社Tenmouにて参加青年が考えたビジネスプランを発表し、その内容についてアドバイスを受ける



アハマド・アル・ファテ・モスクを訪問



バーレーン政府青年スポーツ庁主催の歓迎パーティーに出席されるイマン・ファイサル青年スポーツ庁担当局長(前列左から2番目)と角茂樹日本国大使(前列右から3番目)



バーレーン開発銀行から融資を受けて起業した女性に話を聞く



Tamkeenから融資を受けたバーレーンの起業家たちから、事業設立時や組織の活動内容についての話を聞く

#### バーレーン王国 豆知識

人口: 1千195万人、うちバーレーン人は  
585万人 (48.9%) (2011年、中央情報局)

首都: マナーマ市

言語: アラビア語

宗教: イスラム教 (スンニ派約3割、シーア派約7割)

在留邦人数: 231名 (2014年1月現在)

二国間関係: 両国関係は経済分野を中心に良好。サルマン皇太子が議長を務める経済開発委員会は、国外に6か所しか設けていない海外事務所の一つを日本(東京)に置いている(他の5か所はアメリカ、イギリス、ドイツ、中国、インド)。

(出典: 外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」より)



## フィジー共和国(環境コース)

日程	活動
2月12日(水)	東京(成田)出発(シドニー経由)
2月13日(木)	ナンディ到着、歓迎、オリエンテーション フィジー参加青年と夕食会 ナンディ
2月14日(金)	日本国大使館による講義 伝統的な歓迎セレモニー フィジー青年スポーツ大臣 表敬訪問 歓迎レセプション スバ
2月15日(土)	課題別視察：南太平洋大学 ホームステイのブリーフィングとマッチング、各家庭へ スバ
2月16日(日)	ホームステイ ホームステイの体験共有 ホストファミリーとフェアウェル夕食会 スバ
2月17日(月)	コース関連課題別視察：環境局 (環境に関するフィジー政府の取組) コース関連課題別視察：JICA(JICA及び青年海外協力隊の活動に関する講義) コース関連課題別視察：OISCA(OISCAの活動に関する講義) シンガトカ
2月18日(火)	文化体験と昼食：伝統的な村訪問ナカンブタ村 コース関連課題別視察：シンガトカ廃棄物最終処分場 コース関連課題別視察：ヴァトゥオライ村(村における環境関係の取組について説明、エコツアー(山登りエコウォーク体験)) ヴァトゥオライ村で夕食と交流会 シンガトカ
2月19日(水)	コース関連課題別視察：デナラウ地区(デナラウ開発プロジェクト担当官による講義) ナンディ出発(シドニー経由)
2月20日(木)	東京(成田)到着



青年スポーツ省ヴィリアメ・ナウボト大臣より表敬訪問で歓迎のあいさつを受ける



伝統的な歓迎セレモニーで、歓迎の印としてカバの杯を受ける佐藤団長



JICA事務所を訪問し、「世界青年の船」事業既参加青年の田中健太郎JOCV隊員によるフィジーでの環境に関する取組についての説明を聞く



伝統的な暮らし方を守りながら、観光業で収入を得ているナカンブタ村を訪問(写真は壺作りの実演)



シンガトカ地区にある廃棄物最終処理場を訪れ、ゴミ問題の現実を知る

### フィジー共和国 豆知識

人口：約87万5千人(2012年、世界銀行)

首都：スバ

言語：英語(公用語)の他、フィジー語、ヒンディー語を使用

宗教：フィジー系はほぼ100%キリスト教、インド系はヒンズー教、イスラム教。

全人口に占める割合はキリスト教52.9%、ヒンズー教38.2%、イスラム教7.8%

在留邦人数：532名(2012年10月現在)

在日フィジー人数：181名(2012年、法務省在留外国人統計)

(出典：外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」より)



## メキシコ合衆国(情報・メディアコース)

日程	活動
2月12日(水)	東京(成田)出発(ダラス経由) メキシコ・シティ到着 (全日程宿泊メキシコ・シティ)
2月13日(木)	テオティワカン遺跡見学 コース関連課題別視察:イベロ・アメリカナ大学訪問 (市民運動「Yo Soy 132」について、学生との意見交換)
2月14日(金)	メキシコ青年庁表敬訪問 日本国大使館表敬訪問 歓迎レセプション(日本国大使公邸)
2月15日(土)	振り返りと訪問先の事前準備 SWYAAメキシコとの昼食交流会、ホームステイへ
2月16日(日)	ホームステイ
2月17日(月)	コース関連課題別視察:メキシコ国立自治大学(UNAM) (キャンパスツアー、学生との交流・アイスブレイキング) コース関連課題別視察:ジャーナリストによる講義(メキシコのメディアの歴史概要、学生とSNSの活用について意見交換) 学生との昼食交流会 コース関連課題別視察:社会活動家によるワークショップ コヨアカン地区視察・夕食 振り返り
2月18日(火)	文化体験と昼食:アマトラン村(小学校訪問、博物館見学、グループごとの社会活動・文化体験ワークショップ[博物館清掃、伝統工芸体験、タコス作り、伝統医療]) フェアトレードに取り組むレストランにて夕食、質疑応答
2月19日(水)	メキシコ・シティ出発(ダラス経由)
2月20日(木)	東京(成田)到着



イベロ・アメリカナ大学で日本とメキシコの若者の政治への関心について話し合う



メキシコ青年庁で青年を取り巻く環境について説明を受けた後、自らの5年後の展望について語る参加青年



歓迎レセプションで目賀田周一郎在メキシコ日本国大使やメキシコ既参加青年との記念撮影



世界遺産になっているメキシコ国立自治大学を学生と一緒に見学する



既参加青年の家でのホームパーティーでメキシコの伝統行事「ピニャータ」を体験する

### メキシコ合衆国 豆知識

人口: 約1億2,233万人(2013年国連)

首都: メキシコ・シティ

言語: スペイン語

宗教: カトリック(国民の約9割)

在留邦人数: 8,095名(2012年10月現在)

在日メキシコ人数: 2,683名(2012年)

二国間関係: 1613年10月に支倉常長の慶長遣欧使節団がメキシコ(当時スペイン領)との直接交易関係の樹立を目指して仙台を出帆し、1614年1月にアカプルコの港に到着してから400周年に当たることから、2013年及び14年を「日メキシコ交流年」と位置づけ、日墨両国で記念行事が行われている。

(出典: 外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」より)



トルコ共和国(異文化理解コース)

日程	活動
2月12日(水)	東京(成田)出発(イスタンブール経由)
2月13日(木)	アンカラ到着、ホテルへ移動、朝食、オリエンテーション トルコ参加青年との交流会 日本大使館による講義、臨時代理大使表敬訪問 大使公邸での歓迎レセプション アンカラ
2月14日(金)	オルグンラシュマ・インスティテュートでの文化ワークショップ コース関連課題別視察:アンカラ大学訪問(異文化理解に関する講義、日本語学科学生との交流) ホームステイ・マッチング、各家庭へ アンカラ
2月15日(土)	ホームステイ アンカラ
2月16日(日)	ホームステイ アンカラ
2月17日(月)	トルコ政府青年スポーツ省副大臣表敬訪問 中間振り返り アンカラ出発、イスタンブール到着 イスタンブール
2月18日(火)	アヤソフィア、スルタンアフメト地区視察 ローカル・ユースとの市内散策 歓送夕食会 イスタンブール
2月19日(水)	コース関連課題別視察:「Pembe Melekler(ピンク・エンジェルズ)」(活動紹介、ユダヤ教宗指導者による講義、病院利用者との文化交流) イスタンブール出発
2月20日(木)	東京(成田)到着



トルコ青年、日本青年合同で勝亦孝彦日本国臨時代理大使を表敬し、事業での体験について懇談をする



「世界青年の船」事業既参加青年でもあるアンカラ大学日本語学科長テキメン教授より異文化理解についての講義を受ける



ホストファミリーと一緒に旧トルコ大国民議会を訪れ、過去の議会の様子を見学する



ティン・ユルマズ青年スポーツ省副大臣を表敬し、トルコの印象について懇談した後の記念撮影(写真は青年スポーツ省提供)



ユダヤ系トルコ人ボランティア団体が活動する病院を訪問し、折り紙等を用いて利用者との交流を図る

トルコ共和国 豆知識

人口: 7千666万7864人

(2013年, 国家統計庁推定)

首都: アンカラ

言語: トルコ語(公用語)

宗教: イスラム教(スンニ派、アレヴィー派)が大部分を占める。

その他ギリシャ正教徒、アルメニア正教徒、ユダヤ教徒等。

在留邦人数: 1,725名(外務省在留法人数統計 2012年10月)

在日トルコ人数: 2,528名(2012年 在留外国人統計(法務省))

二国間関係: トルコ人は一般的に非常に親日的であり、日本文化に対する関心も高い。2012年に外務省が行った世論調査によれば、83.2%のトルコ人が日本との関係を「友好関係にある」「どちらかというとも友好関係にある」と回答。

(出典: 外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」より)



# グローバルリーダー育成事業 帰国報告会

## テーマ:わたしのリーダー像 ~想いをカタチに~

平成26年7月6日(日)、グローバルリーダー育成事業の帰国報告会を国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催しました。日本参加青年は18名の実行委員を中心に、各ディスカッションコースによる発表・パネルディスカッション・展示ブースによる分科会を企画・運営し、自身の体験を積極的に来場者へ話しました。また、休憩時には海外研修\*で訪問した国のお菓子などを用意し、来場者に展示物の説明等も行いました。当日は一般参加者を含め約170名の参加者で実施しました。

\*海外研修:日本参加青年はディスカッションコースごとに、バーレーン(青年起業)、フィジー(環境)、メキシコ(情報・メディア)、トルコ(異文化理解)に派遣された。



コース・ディスカッション(異文化理解)で学んだことを今後どのようにいかすかを発表する



パネルディスカッションで事後活動等について発表する



来場者からの質問に答える



海外研修で訪問した国々のお菓子を来場者にふるまう



参加青年の発表に熱心に耳を傾ける聴衆



### プログラム

13:00~13:30	開会式
13:35~14:00	委員会についての発表
14:00~14:40	コース・ディスカッションでの成果発表
14:40~14:55	寄港地活動についての発表
14:55~15:10	休憩
15:10~15:40	パネルディスカッション(事後活動報告を含む)
15:40~16:15	分科会
16:15~16:25	閉会式

### 報告会実行委員長 小林 穂菜美

グローバルリーダー育成事業帰国報告会を無事に終了することができ、関係各位に感謝申し上げます。本番までは、どれくらいの人に足を運んでもらえるのか、我々の気持ちは来場者にどのように伝わるのか、いよいよ始まるというワクワクした気持ちと同時に不安を感じていたことを今もよく覚えています。

海外研修から帰国した翌日に有志の実行委員メンバーが決まりました。実行委員会等を通じて本事業中から事業後に自分たちの学びをどのようにいかしていけるかということを考えました。我々参加青年一人一人が、事業中に得たことや悩んだことなどが異なるため、違いを理解し合いながら報告会でどのように伝えるべきか悩む場面も多々ありました。しかし、当日は多くの皆様が来場してくださり、「今日は来て良かった」、「自分自身が内閣府青年国際交流事業に参加するイメージがはっきりと湧きました」「これから事業に応募してぜひ参加したいです」というような感想を聞き、とても嬉しい気持ちになりました。

また、報告会を一緒に作り上げた実行委員会のメンバーをはじめ、この日のために全国各地から駆け付け、展示物の作成や紹介を行った仲間に出会えたことへの感謝の気持ちと尊敬の念を改めて抱きました。事業を超えたつながりも広がったので、今後はもっと積極的に事後活動に取り組んでいきたいと考えています。





# エストニア共和国教育研究省大臣来訪

平成26年6月24日、エストニア教育研究省大臣ヤヴゲニ・オシノフスキ氏が一般財団法人青少年国際交流推進センターを訪問されました。オシノフスキ大臣は1986年3月15日生まれの28歳で、6月25日～26日に開催されたOECD閣僚会議に参加するために来日されました。当日は、トイヴォ・タサ エストニア共和国特命全権大使、教育研究省クリスティー・ミキヴァー教員部長、教育研究省カトリン・レインEU国際協力局アドバイザー、エストニア大使館トーマス・モールー等書記官兼領事も同行されました。

オシノフスキ大臣は、一般財団法人青少年国際交流推進センターの沿革や活動内容について強い興味を示され、また、日本青年国際交流機構(IYEO)の国際的な活動や、日本とエストニアとの青年交流事業の説明に関しても熱心に耳を傾けられ、1時間以上にわたって和やかな雰囲気の中、懇談が行われました。



ヤヴゲニ・オシノフスキ教育研究省大臣から記念品を受け取る一般財団法人青少年国際交流推進センター大橋玲子事務局長



一般財団法人青少年国際交流推進センターの活動内容やIYEOの説明を熱心に聴くエストニア側の来訪者



左手前より、ヤヴゲニ・オシノフスキ大臣、トイヴォ・タサ エストニア共和国特命全権大使、トーマス・モールー等書記官兼領事



懇談後に、当センターのスタッフと共に記念撮影するヤヴゲニ・オシノフスキ教育研究省大臣(最前列左から3人目)

## 国旗の色

エストニア国旗に使用されている青、黒、白の三色の意味合いについては「青は祖国の上に広がる青空、黒は国土への愛着とエストニアの運命、白は勤勉を指す」(エストニアの詩人マーティン・リップ)という解釈が一般的です。

天皇皇后両陛下が2007年にエストニアを訪問された際、皇后陛下はこの三色を配した洋服をお召しになっていました。



## IT先進国

1991年にロシアから独立したエストニアは、西側の一員となることを目標とし、ITを国造りの柱としました。インターネット通話で知られるSkypeはエストニアで開発され、現在もその最大の研究・開発施設がエストニアにあります。

15才以上の全ての国民・居住者に国民IDカードが配布され、本人確認及びオンライン認証、電子署名などに活用され、ほぼすべての操作にこのIDカードが必要です。

閣議はスクリーンとパソコンのみで行い、紙は一切使用しません。新会社の設立手続は20～30分で完了しますし、銀行取引の99%はインターネットによるものです。また、2005年の地方選挙及び2007年の国政選挙より、本格的な電子投票を実施しています。

2007年に大規模なサイバー攻撃を受けたことがあり、その経験から、翌2008年にNATOサイバー防衛センターが首都タリンに設置されました。

一般財団法人 青少年国際交流推進センター主催  
**国際理解教育支援プログラム**



平成16年より実施している国際理解教育支援プログラムは、今年度も更に規模を拡大して、内閣府青年国際交流事業の参加経験がある在日外国青年等を講師として日本の学校等に派遣して授業を行い、国際的な視野を持つ青少年の育成に貢献する活動として実施しています。

■平成26年度 第1回

日付	平成26年6月19日(木)
実施先	東京都中央区立佃島小学校
担当者	佐久間明子先生(3学年主任)
対象	3年生(94名)
プログラムの目的	子供たちが、自国と他の国の文化、生活、環境などの違いを知ることによって、視野を広げるとともに、自国の文化や他の国の文化を互いに尊重し合う態度を育てることを目的とする。
派遣講師	Ms. Heydee Márquez (ベネズエラ) Mr. Liu Mingquan (中国) Mr. Leng Chandara (カンボジア)

■受入担当者の感想

中央区立佃島小学校教諭 佐久間 明子(3年担任)

今年度も3年生が国際理解教育授業を行いました。3年生は、外国人の児童や幼少期を海外で過ごし、帰国してきた児童などもおり、国際色豊かな学年です。授業では、英語、日本語、母国語を授業中に使い分け、分かりやすく説明して下さる外国人講師の方々に子供たちも感激したようです。また、写真等を使ってわかりやすくその国の様子を伝えてくださったことは、とても勉強になりました。講師の方から子供の時に遊んだゲームを教えてもらうこともできたので、児童たちは大興奮でした。日本の遊びに似ているルールもあり、日本以外の国を身近に感じる時間にもなりました。

授業の後は、給食を一緒に食べました。どの子も近くで食べてほしい、もっと話したい、という思いがいっぱいで、楽しい時間はあっという間に過ぎました。

幼少時からいろいろな国の人たちと触れ合うことやその国の文化を知ることが、これからの国際社会で生きていく子供たちにとって、とても重要なことだと考えています。一緒に過ごして楽しかった思いが、他の国の文化を理解し、尊重し、人として相手を思いやる心にもつながることを期待したいと思います。



3人の外国人講師が授業の前に子供たちと交流する



中国のLiu Mingquan講師が、中国について紹介する

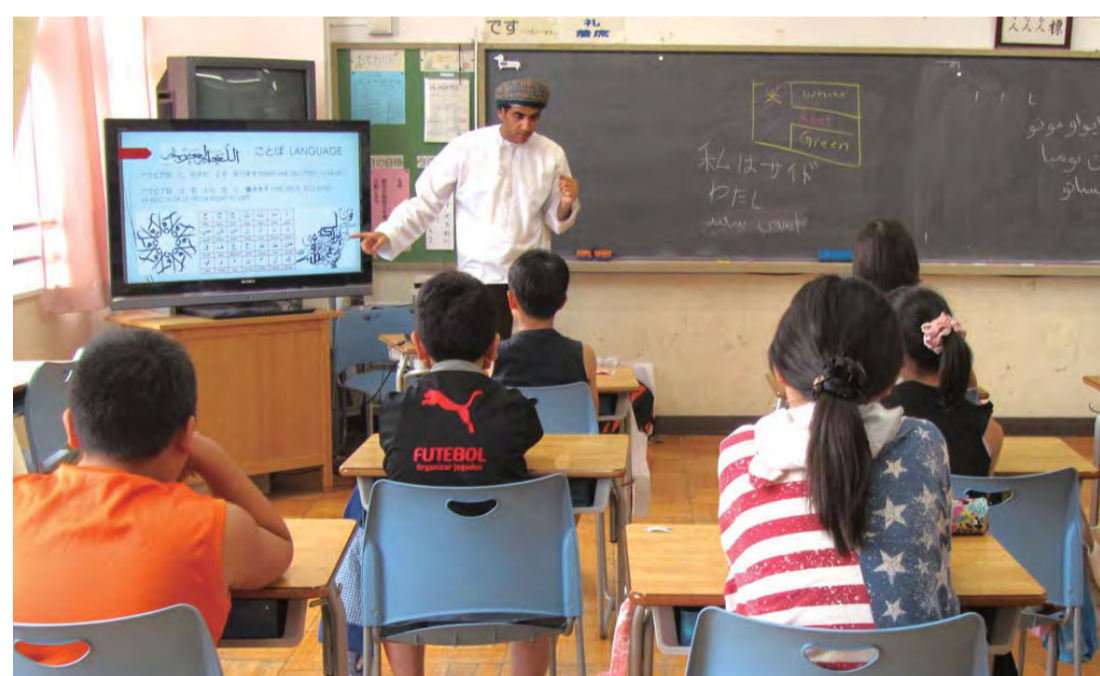
■平成26年度 第2回

日付	平成26年6月21日(土)
実施先	東京都品川区立清水台小学校
担当者	白倉 直明副校長、脇田学先生
対象	全校児童
プログラムの目的	1. 日本人としての自覚をもち、自己の確立を目指す。 2. 相手の立場や文化を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現する。 3. これまで身に付けた英語を活用してコミュニケーションを図る。
派遣講師	Ms. Cameron Nitta (アメリカ合衆国・ハワイ) Mr. Said Al Duhli (オマーン) Mr. Eng Soon Teo (シンガポール)

■受入担当者の感想

品川区立清水台小学校 副校長 白倉 直明

本校では、国際理解教育に力を入れています。今年度も外国の方との交流を通して、異文化理解とコミュニケーション能力の向上を目指しています。授業の最初、子供たちは、講師の方のお国の言葉であいさつをしました。シンガポールの方からは、シンガポールが多くの民族の人々と仲良く生活している国であることを教えていただきました。オマーンの方からは、アラビア文字を教えていただき、子供たちは、読み方が日本語と全くちがうことに驚きました。ハワイの方とは一緒にフラダンスを踊り楽しみました。子供の時から異文化に直接触れることにより、他国の文化を尊重するとともに、自国の文化に誇りをもてる人間に育てていきたいと考えております。



オマーンのSaid Al Duhli講師がアラビア語を子供たちに教える



シンガポールのEng Soon Teo講師がシンガポールの文化について発表する

■平成26年度 第3回

日付	平成26年7月9日(水)
実施先	東京都大田区立入新井第四小学校
担当者	棚瀬先生(3年生担任)
対象	3年生(55名)
プログラム	外国人講師がその国について紹介をするとともに、各国の遊びを児童が楽しむ。
派遣講師	Mr. Ahmed Elsayed Moustafa Hegab (エジプト) Mr. Atanaphone Vatthana (ラオス)

■講師の感想

Atanaphone Vatthanaさん(ラオス)

講師として参加し、子供たちとの交流を通じて日本の学校教育についてこれまで以上に多くのことを学ぶことができました。授業の時間配分も良く、とても充実したプログラムとなりました。今後、また訪問する際は、先生との交流も含め、もっと子供たちともディスカッションをしたいと思います。



授業後に児童から外国人講師宛に届いた御礼の手紙



エジプトのAhmed Elsayed Moustafa Hegab講師がイスラム文化を子供たちに教える



ラオスのAtanaphone Vatthana講師が自国の遊びを子供たちに教える

■平成26年度 第4回

日付	平成26年8月2日(土)
実施先	ギャラクシティ・こども未来創造館
担当者	山本良子様、内野亜沙美様
対象	小学生と未就学児4~5歳及び保護者約50名
プログラム	ハワイの文化やフラダンスを学ぶ (ハワイアン・ムームーカード作りを含む)
派遣講師	Ms. Cameron Nitta (アメリカ合衆国・ハワイ)



ハワイアン・ムームーカード作り



完成したハワイアン・ムームーカード



Cameron Nitta講師がハワイの歴史や文化についてお話しする



「Pearly Shells Song」に合わせてフラダンスをする

◆問合せ先

国際理解教育支援プログラム担当：田中 佐代子・大久保 正美

E-mail: iuesp@iyeo.or.jp

Tel: 03-3249-0767

# IYEOスリランカ教育支援プロジェクト One More Child Goes To School 笑顔の輪を広げよう ～子供たちに夢を届けよう～



日本青年国際交流機構 (IYEO) の国際支援活動の一つである One More Child Goes To School は、2008年にチャリティー・イベントを通じて学用品を提供するプロジェクトを開始し、2010年からは、フォスター・ペアレンツ (里親) 制度を開始しました (5期目: 62組のペアレンツが69名の子供たちを支援)。

平成26年7月19日～23日には、支援先であるスリランカ南部マータラ県ハクマナ地区の Buddha Jayanthi Vidyalaya 小学校を訪問する初のスリランカ・ツアーを実施しました (ペアレンツを中心とした7名が参加)。歓迎セレモニーで先生方、全校生徒、保護者が温かく迎えてくれました。小学校の依頼に基づき、今年は生徒400人分に相当する机と椅子250セット、コピー機、プレイルームの机と椅子一式を贈呈しました。2日間の学校訪問では、日本文化の紹介、ペアレンツからのプレゼントの贈呈、学用品の寄付などを行いました。

このツアーは、スリランカの「世界青年の船」事業既参加青年の多大なる協力のもとに実施されました。

## ■参加者のコメント

### 田中 瑛莉加さん (第37回「東南アジア青年の船」事業)

手紙と絵で交流している子供たちにようやく会える! とワクワクしながらスタディー・ツアーに参加しました。初日は、学校の前で全校生徒が出迎えてくれました。子供たちと対面できたときは感動しました。可愛い笑顔で笑いかけてくれる子供たち、手作りの温かいおもてなし、純粋な笑顔に心洗われる学校訪問でした。どうもありがとうございました。

### 河上 加寿美さん (第25回「世界青年の船」事業)

ツアーは充実しており、スリランカの既参加青年と共に現地の魅力を十分に味わえました。学校訪問では大歓迎を受け、授業や校舎の見学を通し、学習環境等を知ることができました。スリランカの豊かな自然に触れ、現地の温かい人々と交流し、支援先に実際に足を運んだ中で得た学びは数多くあります。今後は、この大好きな国と、はにかみながら手を振ってくれた子供たちのためにプロジェクトに積極的にかかわっていきたくと考えています。

## ■ツアーに協力して下さったスリランカ現地旅行会社 (サンシャイン・イン・トラベル) 代表

### Deshamanya Abeysooriya, Justice of the Peace

(要約) ツアーを企画することができ、大変光栄です。スリランカと日本は歴史的な背景から強い絆で結ばれており、スリランカの人々は常に日本に尊敬の念を抱いています。経済的な理由で学習の継続が困難な子供たちは、この奨学金のおかげで未来への希望を抱くことができます。人は、誰もが教育を受ける平等の権利を持っています。子供たちへの御支援に感謝申し上げます。スリランカでお会いできる日を楽しみにしています。

## スケジュール

日程	スケジュール
7月19日 (土)	コロンボ着 (夜) (コロンボ泊)
7月20日 (日)	車にてゴールに移動 世界遺産「ゴール旧市街と要塞」観光 (ゴール泊)
7月21日 (月・祝)	「カナリヤ森林保護区」観光 (ゴール泊)
7月22日 (火)	学校訪問、マータラ地区観光 (ゴール泊)
7月23日 (水)	学校訪問、車でコロンボに移動、観光等 コロンボ空港にて解散 (夜)



学校あげての熱烈歓迎 (スリランカ最大のお祭りペラハラを小学校でアレンジし、ブラスバンドと共に迎え)



校長先生、教育委員会の方2名と日本人参加者たち



スリランカの子供たちの授業風景



新しい机を喜んで運ぶ子供たち

プロジェクトに興味がある方は、以下のアドレスにお問合せください。  
また、Facebookの「One More Child Goes To School」ページも併せて御覧ください。  
スリランカ教育支援プロジェクト・チーム onemorechild@iyeo.or.jp

マクロコズムの表紙はスリランカの支援先の小学校に通う子供たちが描いています。  
活動の様子は、マクロコズムwebで一部報告しています。http://macrocosm.jp/  
Vol.84 2009年2月/Vol.90 2010年5月/Vol.106 2014年4月

## 国際青年会議（健康とスポーツ） International Youth Conference Health and Sports



平成26年5月19日(月)～23日(金)、バーレーン王国(マナマ)において、バーレーン青年スポーツ庁(GOYS)が主催する、第2回国際青年会議が実施され、「健康とスポーツ」をテーマに約30か国の代表青年(各国男女1名ずつ)が参加しました。

バーレーンの文化や歴史を学ぶツアーやイベント、バーレーン大学にて専門家によるプレゼンテーション、参加青年によるグループプロジェクト立案などが行われ、健康とスポーツの関係について話し合いました。プレゼンテーション後の質疑応答では、地元青年の健康に関する一番の関心事は、ダイエット(食欲を抑える方法、体重を落とす一番の方法など)であり、健康に対する考え方、目的の違いが明確となりました。閉会式では、全参加青年を代表して、日本青年がスピーチを行いました。

日本青年国際交流機構(IYEO)は、内閣府からの依頼に基づき、参加青年を推薦し、会員2名が派遣されました。

5月19日(月)	参加者現地到着、ブリーフィング
5月20日(火)	開会式、基調講演
5月21日(水)	1: 青年の食習慣とその影響 ① 健康な未来へのステップ ② 健康的なライフスタイル ③ ディスカッション
5月22日(木)	2: スポーツの実践とスポーツが青年の未来に与える効果 ① スポーツとは ② スポーツの役割とそれが地域文化に与える影響 閉会式
5月23日(金)	帰国



閉会式で参加青年を代表してスピーチをする日本青年

## マレーシア国際青年交流2014 Malaysia International Youth Exchange (MIYE) 2014



平成26年5月21日(水)～26日(月)、マレーシア(クアラルンプール・プトラジャヤ)において、マレーシア青年スポーツ省が主催する、マレーシア国際青年交流2014が実施され、ASEAN各国と日本、モルディブ、ネパール、ロシア、ソマリア、イエメンの計16か国から89名の代表青年が参加しました。

“Towards Strengthening Youth Participations in Preserving Culture and Heritage”をテーマとしたプログラムの中で、代表青年の交流により相互理解を促進すると同時に、プトラジャヤ・ユース・フェスティバルに参加し、日本文化紹介や、多国籍協働のパフォーマンスをしました。

日本青年国際交流機構(IYEO)は、内閣府からの依頼に基づき、参加青年を推薦し、会員5名が派遣されました。

### ■参加者の感想

MIYE2014開催期間中、様々な青年と交流することができたが、特に、あるカンボジア青年のことが印象に残っている。外交官を目指して大学で国際関係学を学んでいた彼は、日本がカンボジアに行っている開発援助への感謝の気持ちを伝えてくれた。同時に、「日本人はどのように倫理観が高いのか」という質問を投げかけてきた。彼はカンボジアと日本の国交から、日本人の際立った勤勉さや誠実さを感じ、どのようにそれらの思想や習慣が生まれるのか不思議に思ったそうだ。難しい質問だったが、私は自分なりの考えを伝え、議論を深めた。

日本について深く考え興味を抱いている外国青年と対話できたことは、深く私の印象に残った。私たち個人が海外にいる時は「個」として国を代表しているが、同時に国という「集合」でも私たちの行動は世界中から見られ判断されている。そして往々にして国際社会に対してその国を代表するのは、国家政府だ。このことを改めて思うと、日本の低い投票率や若年層の政治への無関心さも自分のこととして考えなければならない重要な問題であると言えるのではないだろうか。将来の日本を背負う青年として気持ちを引き締めるとともに、この機会に出会えた友人たちの国を訪ねる計画を立てるのが現在の楽しみの一つとなった。



ユース・フェスティバルでの日本のパフォーマンスを終えて(筆者左から2人目)

平成22年度 第24回日本・韓国青年親善交流事業 阿部 星渚

青少年国際交流事業事後活動推進大会  
日本青年国際交流機構第30回全国大会  
第21回青少年国際交流全国フォーラム  
北海道大会(案)

**11月  
22(土)  
23(日)**

**IYEO  
全国大会 2014**

開催地：北海道札幌市 定山溪温泉  
宿泊場所：定山溪万世閣  
ホテルミリオナー  
(www.milione.jp/)




**見せます、本当の北海道**

**基調講演**

最新刊「竹鶴とリタの夢 余市とニッカウキスキー創業物語」(双葉社)9/20発売

せんごく りょうたろう  
●基調講演者：千石 涼太郎さん

ノンフィクション作家・エッセイスト  
北海道小樽市生まれ、札幌市在住

〈著書〉  
双葉文庫の『北海道だべさ!!』シリーズ  
『不思議の大地なまら北海道』  
『北海道はじめて物語』(廣済堂出版)  
『県民性の謎』『爆笑列島 日本の謎』(朝日ソノラマ)  
『県民性交際術』(小学館)など多数


※講演者へ直接の問い合わせは  
ご遠慮ください

新着情報やお問い合わせは北海道 IYEO FaceBook ページをチェック  
当日スタッフも大募集☆  
⇒全国大会実行委員会広報：小田 (oden03@hotmail.co.jp) まで!




**実行委員長より**

皆様こんにちは!今年度のIYEO全国大会の実行委員長を務めている渡部卓人です。本大会の骨子の一つとして「共生」というキーワードがあります。北海道は厳しい自然環境を柔軟に受け入れ、異なる文化を持つ人々が共に助け合いながら、開拓の歴史を築いてきました。その中で育まれた共生の精神は、我々道産子を構成する重要な要素であり、グローバル人材に求められる資質です。このように北海道にはまだまだ多くの特色、魅力が溢れています。よりディープな、本当の北海道を体感してみませんか?  
**皆様のご参加お待ちしております!**



**プログラム**

第1日目 11月22日(土)	
12:30	受付
13:30	開会式
14:00 ~15:15	基調講演：「北海道文化の成り立ちと在り方」 講演者：千石涼太郎氏 (ノンフィクション作家、エッセイスト)
15:30 ~18:00	分科会
18:45 ~20:15	懇談会
第2日目 11月23日(日)	
9:00	表彰式
9:30	事後活動紹介
11:00 ~11:15	閉会式


分科会及び地域理解研修では、北海道における自然、地域と海外、異なる文化といった様々な共生の形を学ぶことができるコースを予定しています。

参加申し込みについては、9月中旬以降ウェブサイトでご案内します。⇒ <http://www.iyeo.or.jp/>

**今月の表紙**

スリランカ教育支援プロジェクト「One More Child Goes To School」の奨学生(5年生・男子)の作品。

ジャングルの様子。動物たちは個々の違いを受け入れて、互いに平和に調和のとれた生活をしています。この絵には、いかなる異なる状況においても、誰もが平和で幸せに暮らせる世界になりますようにという子供の強いメッセージが込められています。



**編集後記**

ここ数年、夏になると都内で落雷することが多くなりました。昨年は我が家に落ち、停電でマンションのオートロックが故障してしまい、私は部屋に入れませんでした。今年の落雷では、またオートロックが壊れ、部屋には入れましたが、自室から階下のロックを解除できなくなり、来客がある度に階下に降りて行ってロックを手動で解除していました。家に入るということがこれほど大変だとは思ってもみませんでした(ふ)

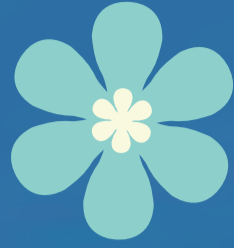
**MACROCOSM** 8月号 vol.107

2014年8月29日発行

編集 マクロコズム編集委員会  
発行 一般財団法人 青少年国際交流推進センター  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町  
2-35-14 東京海苔会館6階  
TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436  
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp  
URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)  
<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室  
日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 210円 [本体194円]  
印刷所 株式会社デックス  
TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270



「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	018-866-0109
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
ストリームライン 新宿支店	03-5348-3500
横浜支店	045-326-1120
甲府支店	055-222-0381
新潟支店	025-243-1515
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
長野支店	026-226-4315
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
名古屋支店	052-232-1091

支店名	電話番号
三重支店	059-221-3331
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
大阪支社第2営業部	06-6344-3927
神戸支店	078-221-1090
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
山口支店	083-972-5454
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

国際会議から出張まで、  
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東急観光が社名を変えました。

**トップツアー株式会社**

観光庁長官登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

**03-5348-3500**



10450055(02)  
JISQ15001:2006準拠



撮影：中村 風詩人

## 心まで豊かに実る、初秋の船旅。

秋は、草花が色づき始め、風景が輝きを放ちます。  
 そんな上質な季節に、ぜひ、にっぽん丸の船旅を。  
 人生により鮮やかな色彩を与えてくれる物語が幕を明けます。



○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。

**商船三井客船** クルーズデスクフリーダイヤル 9:30~17:00(土・日・祝はお休みです) 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5階  
**☎0120-791-211** <http://www.nipponmaru.jp>